

令和4年産主食用米の「生産の目標」について

令和3年12月20日
香川県農業再生協議会

1 「生産の目標」設定の考え方

大幅に需給が緩和している全国情勢および本県の主食用米の作付面積が毎年400㍊規模で減少している現状から、産地としての生産量の確保や水田農業の維持を図ることとし、「生産の目標」の設定にあたっては、全国の需給見通しを踏まえ、県産米の需要・販売動向や作付実績などに基づき、令和3年産の作付面積を維持するため、県全体で設定します。

2 主要品種の生産の方向性


品 種 名	流通・販売状況と生産の方向性(J A香川県取扱より)
おいでまい	約86%が県内向けに家庭用精米として流通され、学校給食でも使用されています。 ブランド化に向けた取組みを強化しながら「特A」評価が継続できるよう良食味を維持しつつ、品質の高位安定化に努め、香川県を代表するオリジナル米として、需要動向をみながら作付面積・生産量を増加させていきます。
コシヒカリ	約89%が県内向けに流通し、家庭用精米の定番となっています。 県内を主体に需要はありますが、温暖化による品質の低下が著しいため、麦との二毛作を踏まえた水稲の中生品種や業務用途向けの主食用多収品種へ転換を図ることから、作付面積・生産量を減少させていきます。
ヒノヒカリ	約62%が関西圏など県外向けに流通し、年間を通じて食味が安定しており、主に業務用途での需要が多くなっています。 複数年契約の取組みを進め販路を確保し、需要に応じた生産を進める必要があることから、作付面積・生産量を維持させていきます。
あきさかり	主に県外業務用途向けとして導入しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による中食・外食の需要減退のため、販路の確保が課題となり、約75%が県内向けに流通しました。 複数年契約を含めた、業務用途への販路拡大に向けた取組みを強化し、需要動向を見ながら作付面積・生産量を維持させていきます。

3 地域ごとの主食用米の生産の方向性（JA香川県各地区営農センター）

地区 営農C	主要品種・作付順 (下線はR3年産作付最多)	生産の方向性	
		作付面積	品種構成比率
大川	<u>コシヒカリ</u> あきさかり ヒノヒカリ	コシヒカリ：減 あきさかり：維持 ヒノヒカリ：維持	コシヒカリに作付が偏っている（R3年産約73%）ため、主にあきさかりへの品種転換を行い、コシヒカリの構成比率が60%程度になるようにしていく。
中央	<u>ヒノヒカリ</u> <u>コシヒカリ</u> あきさかり	ヒノヒカリ：維持 コシヒカリ：減 あきさかり：維持 おいでまい：増	コシヒカリの短期栽培の構成比率を減少し、あきさかり（約13%）、ヒノヒカリ（約47%）への転換を行うとともに、おいでまい（約6%）は増加させる。
小豆	<u>コシヒカリ</u> ヒノヒカリ	コシヒカリ：維持 ヒノヒカリ：維持 あきさかり：維持	コシヒカリ（約62%）、ヒノヒカリ（約10%）、あきさかり（約2%）の構成で面積維持に努める。
綾坂	<u>コシヒカリ</u> ヒノヒカリ おいでまい	コシヒカリ：維持 ヒノヒカリ：維持 おいでまい：維持 あきさかり：維持	主要4品種（コシヒカリ（約31%）、ヒノヒカリ（約25%）、おいでまい（約22%）、あきさかり（約18%））の構成比率は維持していく。
仲多度	<u>おいでまい</u> コシヒカリ ヒノヒカリ	おいでまい：維持 コシヒカリ：維持 ヒノヒカリ：維持 あきさかり：維持	おいでまい（約33%）は現状維持、ヒノヒカリ及び短期栽培のコシヒカリからあきさかり（約13%）への転換を行い、作型分散と作付面積の維持に努める。 コシヒカリ（約28%）・あきさかり（約13%）・おいでまい（約33%）を中心として取り組む。
三豊	<u>ヒノヒカリ</u> コシヒカリ オオセト	ヒノヒカリ：維持 コシヒカリ：減 オオセト：増 あきさかり：維持	コシヒカリの構成比率を減少し、あきさかり（約4%）、ヒノヒカリ（約48%）への転換を行うとともに、オオセト（約5%）は増加させる。
豊南	<u>コシヒカリ</u> あきさかり ヒノヒカリ	コシヒカリ：維持 あきさかり：維持 ヒノヒカリ：維持	あきさかり（約38%）、コシヒカリ（約43%）、ヒノヒカリ（約17%）の構成比率は維持していく。

4 令和4年産の主食用米の「生産の目標」

※（ ）の数値は生産の目標

	生産の目標			【参考】 令和3年産(10月現在)		【参考】 令和2年産(実績)	
	面積 (ヘクタール)	生産量換算値 (トン)	向き	面積 (ヘクタール)	生産量換算値 (トン)	面積 (ヘクタール)	生産量換算値 (トン)
県全体	11,300	56,048		※(12,600)	(62,496)	※(13000)	(64,480)
				11,300	56,600	11,600	57,500

注1)「生産の目標」の生産量換算値(トン)は、全て県の平年収量496kg/10aにより算定。

注2)県全体の数字は農林水産省統計公表値。